

令和 7 年度 福島大学基金研究推進事業助成による成果報告書

令和 7 年 7 月 2 1 日

学 長 殿

所属部局・職名 人間発達文化学類・教授

申請者名  
(学会参加助成の場合は参加者名)

森本 明

<p>助成の区分 (該当するものに○)</p>	<p>○学会発表助成・学術出版助成・学術論文発表助成</p>
<p>研究活動名</p>	<p>24th International Congress on the Education of the Deaf in Rome, Italy (ICED 2025)における研究成果発表</p>
<p>成果の概要</p>	<p>令和 7 年度 7 月 7 日から 11 日の 5 日間開催された 24th International Congress on the Education of the Deaf in Rome, Italy に参加するとともに、研究成果の発表を行なった。成果発表のタイトルは TOWARD IMPROVING TEACHER EXPERTISE IN THE TEACHING AND LEARNING OF MATHEMATICS FOR STUDENTS WHO ARE DEAF AND HARD OF HEARING である。本研究は、聴覚に障害のある生徒のための特別支援学校における数学の学習・指導に関する教員の専門性に焦点を当てたものである。日本における聴覚障害教育の重要な課題の一つは、各生徒の資質・能力の向上に応えるべく、数学を含む教科教育をどのように充実させていくかにある。本研究では、聴覚に障害のある生徒の数学の学習・指導における教員の専門性を理解するための枠組み (Morimoto &amp; Obara 他, 2024) を用いて、Ernest (1989) の数学に関する信念の分類を手がかりに、数学教師を志す聴覚にかかわる困難のある大学生が、聴覚にかかわる困難に配慮を要する中学生を想定し、授業を構想・設計し、模擬的に実践する過程を事例として取り上げ、検討した。その事例的検討をもとに、特別支援学校における数学教育の専門性を高めるための方策を提案した。特に、本研究は、秋田大学教育文化学部の講師である加藤慎一氏、ならびに筑波大学附属聴覚特別支援学校教諭(数学科)である小原舞音氏、それぞれ本学修士、教職修士(専門職)修了生であり、彼らとの共同研究の成果の一部であり、すすめてきた経過と成果の報告を共同で行なった。世界各地からのろう教育研究の新たな取り組みにも接することができ、また発表を通してろう教育研究者との質疑応答を通して貴重な意見交流ができたことは有意義であった。今後の研究の充実と発展に生かしたい。</p>